

# 所 報

第17号 昭和63年 3 月

沖縄県立教育センター

## も く じ

昭和62年度を顧みて……………	1	研修を通して学んだこと……………	8
特別活動研究室3 とくから再スタート……………	2	研修を終えるにあたって……………	9
道徳研究室新設にあたって……………	3	昭和62年度研究発表……………	11
先生、今も走っていますか……………	4	昭和62年度長期研修員と研究テーマ……………	13
特殊教育研究室の概要紹介……………	5	職員人事異動者……………	20
研修を終えて……………	7		

# 昭和62年度を顧みて

所長 石原 昌弘

## 1. 第42回 国民体育大会（海邦国体）参加

昭和62学年度は、県民としての一大行事といえは“海邦国体”の成功にあった事と思います。

秋季及びかりゆし国体のメイン会場に隣接する教育センターは、所員の殆んどが式典班の一員として夏季国体を含めて、その開、閉会式の裏方の役員（所員の一部は競技役員）となり活躍することができました。

特に皇太子殿下、妃殿下及び皇室の方々の行啓やご来県に際し、そのご日程の一部に本センターをお加え戴き、お迎えできました事は特筆されることで、大変光栄に思う次第であります。

## 2. 移転完了式典及び祝賀会

昭和58年から推進してきました県立教育センター移転整備事業が昭和62年3月に建物等の建築及び移転が完了致しました。

この大事業の完了に伴ない、移転完了式典及び祝賀会が同年5月20日、県教育委員会の主催で本センターにおいて盛大に挙行されました。

綿貫民輔沖繩開発庁長官（代理 中井 省開発庁振興総務課長）、加戸守行文部省教育助成局長（代理 村山正信文部省教職員課長補佐）のご臨席を得て、祝辞を賜りました。

西銘順治沖繩県知事（代理 新垣雄久副知事）志村 恵沖繩県議会議長、宜野座毅教育委員長、池田光男教育長のご挨拶をいただきました。

改めて深く感謝を申し上げますとともに、所員一同、本センターの責務の重要性和県民皆様のご期待、教育界の一員として果すべき使命感をより一層深く肝に銘じ“精思力踐”本センターの事業を推進していく所存であります。

## 3. 組織の拡充・整備

併設されていた道徳・特別活動研究室を分離。情報処理教育課の職員を増員して充実強化を図るとともに、かねての計画により、英語、音楽、図工・美術、及び技術の各研究室に長期研修員を受け入れることができました。

長研員（6ヶ月と1年）の数が今年も増え、計121人となりましたが、この数は全国一であると自負するものであります。この実績を学校へ還元すべく教壇実践に密着した理論と実践研修の質の向上に努力し、教職員の力量の向上、子どもの学力向上に寄与したいと考えております。

情報処理教育課のホストコンピューターの容量アップ等の予算が付き、情報化へのニーズの高まりに対応できるものと思われます。

また生徒の情報処理、技術の意欲の向上のため、生徒実習の充実が期待されます。

電話による教育相談“こころの電話”もセンター事業として一室設け3人の相談員が担当して居ります。その相談事例の冊子を発刊し、各学校への配布を予定致して居ります。

## 4. 研修の体系化

教職員が専門職として、ライフステージにおいて、どのような研修を位置付けるのが望ましいのか、自覚と自信を高める研修内容の構築は、ごく重要な課題であります。

基礎、基本に始まり、職能の各段階における深化、拡充、応用の視点から研修内容を構成し、それぞれをどこの機関が分担するのか等、難問が数多い。しかし、研修の体系化は是非纏めなければならない現在の課題であります。

初任者研修は、本センターも担当し、試行として、まずは所期の目標を達成する事ができたと思われませんが、改善すべき点もあり、既設の研修とも考え合せ、精選充実を期し、21世紀を担う初任者に応わしい研修でありたいと考えております。

## 5. おわりに

昭和63年度は、臨教審、教養審、教課審の答申をふまえ、第3次教育改革実施初年度になるものと思います。個性重視、生涯教育、変化への対応を具体化し、教師自ら学び、児童、生徒を教え、育成し、自己教育力を身につける事を目標に邁進する年でありたいと望むものであります。

# 特別活動研究室

## 3とくから再スタート

特別活動研究室研究主事

新 崎 直 恒

### I 3とくから独立

昭和57年から県立教育センターで充実した日々を送って6年が経過しました。

当初は、特別活動、道徳、特殊教育が同室であったので、特活の特と道徳の徳、特殊の特を指して、「3とく」という愛称で呼んでいました。

そのために、この部屋に入ると各自の専門性のもとより、特活、道徳、特殊教育の基礎基本を学んで長研を修了する教育環境でした。

関係機関と所長等のご努力で、昭和62年に各々分離独立し、担当主事も2人から5人へと大きく変容しました。独立して一息つくくと、これまでの時間的制約から解放され、朝のミーティングから特活を論ずることのできる自由に感動し、1日の研究時間が質的に向上しました。

### II 特別活動研究室の経営

#### 1. 経営方針

「望ましい集団活動から個性の伸長」に到る特別活動の目標を達成するため、小・中・高の特別活動の内容を創意工夫し具体化するために、調査・研究・研修事業を積極的に推進し、本県特別活動の教育実践に寄与する。

#### 2. 経営目標

- (1) 特別活動の学校における重要性に応え、指導実践の向上のため共同研究の充実につとめる。
- (2) 全教連、九教連等の研究団体と連携し、研究内容の質の充実向上につとめる。
- (3) 長期研修や短期研修等の修了者と情報を交換し、たえず、現場のニーズに応える研究テーマの焦点化につとめ教修事業の充実強化につとめる。

(4) 「なすことによって学ぶ」生徒像を確立し、特別活動の特質を捉えつつ、即効性のある指導方法を追求する。

#### 3. 調査研究

研究テーマを設定し、小・中校に研究協力を依頼し、定例研修や調査結果をもとに、研究集録を発刊する。

#### 4. 長期研修

6カ月の長期研修を通して、教職員の資質の向上を図り、実践する教師を育成する。

○募集人員

昭和63年

小学校	前期	2人	
中学校	後期	2人	計5人
高校	後期	1人	

#### 5. 短期研修

- (1) 中高校特別活動基礎講座（5月24、26日）  
○進路学習と個別指導   ○進路情報等
- (2) 小学校特別活動応用講座（6月1、3日）  
○適応指導の展開   ○特別活動の評価
- (3) 移動センター特別活動基礎講座  
○集団活動と段階的指導の工夫

### III 自己教育力と特別活動

自己教育力を自己学習力（自己陶冶力）として教科学習の場面で、意欲をもって継続的に完遂するまで取り組む力や、自己訓育力として、生き方そのものに対する努力と定義するならば、自己訓育力が教科外の諸活動として、「なすことによって学ぶ」特別活動の特質の諸活動のなかで、進路指導や児童、生徒活動の「生きる喜びの根源」にかかわる内容としてこれからの重要な研究課題となる。

# 道徳研究室

## 新設にあたって

道徳研究室

仲里好子

### 1. はじめに

昭和33年に道徳の時間が特設され、30年を経ようとしている。各学校では、全体計画や年間指導計画が整備され、道徳の時間の指導法等を含めある程度実践の努力が見られるようになった。しかし、必ずしもその役割を十分果たすところまで到達しているとは言い難い。

道徳教育は学校教育の基本の問題であり、全教師が共通理解し、全教育活動を通して一貫した指導をなすべきである。道徳教育の充実の外からの指摘を待つまでもなく、教師自らが日常の教育実践を問い直し、児童生徒のよりよい人間形成を促すような道徳教育の創造と実践に努めなければならない。

教育課程改訂の方向として、小学校、中学校、高等学校を通じて道徳教育の充実が強調され、教育課程上の位置づけについては、現行の基本的な考え方を維持しつつ、各学校段階の内容の重点化を行い、その指導の充実を図る意図でますます道徳教育の充実強化が強調されてきた。さらに、道徳教育の充実については、教育内容の改善だけでなく、適切な教材の確保、教員養成や現職教育の充実、学校に於ける指導体制の改善、学校と家庭、地域社会との連携の強化等、指導の効果を一層高めるように配慮するようになっており、各学校現場では、現在以上に道徳性を育てる配慮が必要となってくる。

以上のことから、今回の道徳研究室の新設は大きな意義があると思う。

### 2. 経営にあたっての努力事項

#### (1) 研究室の整備、充実

道徳教育の研究や研修等に関する資料の収集と共に、道徳の時間の資料等を多方面から

収集保管し、研究、研修の場であると同時に資料センター的な役割も果たしたい。

#### (2) 研修事業の充実

##### ① 短期研修

小学校・中学校の教諭を対象に道徳の時間の指導の充実と道徳教育の具体的方法論等、教壇実践にすぐ役立つ研修をし、教職員の指導力の向上を図る。

##### ② 長期研修

6か月間の長期研修を通して、教職員としての資質の向上を図る。

#### (3) 調査研究

研究テーマを設定し、研究協力員の先生方の協力のもとに研究を深めていく。

### 3. おわりに

人間生活の中に道徳は基本的に必要なものである。「心の教育即人間教育」が今日的な道徳教育の新しい課題となりつつある。「心の教育」即ち人間教育としての実践的側面の充実に力を入れるとなると、それは単に「道徳の時間」の充実だけでなく、国語科、特別活動、生活科、その他教育活動等の中でも実践的な人間教育を配慮した指導が大切になる。これからの道徳教育は、全教育活動の中で現実の課題に即した道徳実践力を育てると共に今までより以上に道徳実践を意図的に育てていく教育を重視していくことが大切になると思う。道徳教育は教授活動をする中でさけて通ることのできないものではないだろうか。多くの先生方が研鑽の場として利用していただきたい。

# 先生、今も 走っていますか

教育相談研究室 研究主事  
安次嶺 敏 雄

午前4時、街灯の照らす薄明りの道を目的地めざして静かに走りだす。

めざす目的地は国場川に架かる那覇大橋である。海軍壕近くにある我が家からは、ゆるやかな下り坂になっており、走り出しには好都合である。

一日4kmのジョギングを日課とするようになったのは昭和58年8月からのことで間もなく満5年になる。

毎日4kmのジョギングをノルマとして自分に課すことは、苦しい時もあるがそれにも増して満足感や充実感、楽しいことや有益なことの方がはるかに多い。

まず、その第一は、定期積み立て預金のように、日数を重ねるごとに走った距離数が増えていくことである。

一日4kmを10日間つづけると40kmとなり、那覇から慶良間までの距離に相当する。

これを1カ月間つづけると120kmとなり、辺土岬から喜屋武岬までの沖縄本島の長さとはほぼ同じになる。

さらに、これを1年間つづけると、約1500kmとなり、北海道から鹿児島あたりまでの距離にあたる。

この計算でいくと10年、20年ではどうなるだろう。地球を一周するには何年かかるだろうかと夢はさらに広がっていく。

ちなみに地球一周を4万5000kmとして計算してみると実に30年を要する。

一日4kmのノルマをどれだけつづけられるか未知数だが、仮に30年間つづけられたとしたら私は70歳の老境をむかえていることになる。

このように一日4kmのジョギングが10日間で慶良間、1カ月で沖縄本島縦断、1カ年で日本列島

縦断と自分の足で一步一步ふみしめながら、到達していくことは、預金通帳の金額が少しずつ増えていく心境に似ている。

日掛けの30年定期預金の積み立て残高が少しずつ増えるのをひとりで楽しんでいるようなものである。

次に、40～50分間を足どりも軽く走っていると自然に過去のできごとが頭に浮んできたり、忘れていたものがふと思い出されたり、これからやらねばならない課題がぱっとひらめいたりすることがある。

その時は、宝物でも発見したかのような喜びと感動をおぼえる。あまりの感動に足どりは一層軽ろやかになり、まるで雲の上でも走っているかのようで、4kmの道のりが短かく感じられる。

早朝ジョギングが5年もつづき、今後とも地球一周めざして頑張りつづけたいと強く思う最大の理由は、この辺にある。

さらに、4kmのノルマを果たすことができたという達成感や満足感、ハーハー、ドキドキしながら汗を流す快い疲労感や充実感、それに一風呂浴びた後のさっぱりした爽快感など、身体的、精神的効果は大きいものがあり、見逃すことはできない。

ひいては、根気強さや集中力、勇気や自信などにも発展し、人生を明るく楽しく、さわやかに生きるための原動力ともなっている。

これら数々の効果及びメリットを総称して“ランナーズ・ハイ”と呼ぶようである。

ランナーズ・ハイということばを私なりに解釈すると“走る者のみが味わうことのできる喜び”とも言えるのではないかと思う。登山者が山頂に到達したときのあの気持ちにも似て、何んとも言えない感激のつばに浸っている状況である。

これは決してオーバーな表現でなく、心からそう信じて疑わない。

ところで、雨の日や風の強い日、寒さの厳しい日などに4時から早朝ジョギングをすることは、正直のところ一大決心がいる。

特に12月から3月までの間は、ふとんをはねのけてパジャマからトレーニングウェアに着替えるまでのわずかな時間が勝負どころである。

睡魔や寒さと戦い、心の葛藤にも打ちかって頑なに信念を通さねばならない。

中途半端ないいかげんな気持ちでは、とても太刀打ちできない。これはつまるところ自分との戦いである。自分に妥協するか、言い訳を考えるか、それとも頑張り通すかは、まさに自分次第である。

このことをひしひしと感じたのは、昭和58年の11月から12月中旬にかけての茨城県筑波での中堅教員中央研修受講中も走りつづけなければならないと心に決め、厳しい寒さの中を走らざるを得なくなった時である。

プールの水は凍り、まるで冷蔵庫の中にでもいるような寒さの中をザクザクと霜をふみながら、走っているとつい弱音をほきそうになる。

手はかじかみ、耳や鼻先はヒリヒリ痛み、自分の吐き出す白い息でメガネがくもって一寸先も見えないような状態は初めての経験で、走るのに苦労すると共に、気温の低さにおどろいた。

一周400mのトラックを10周して帰ってくると、合い部屋の京都の彼氏が「沖繩の先生、よー頑張りますなー。」と感心していた。

今、想い出してみるとつらかったことは忘れ、場面場面だけが一コマスライドのように浮んでくる。

最後に、かつての同僚や学級の子どもたちに街頭でばったり出会ったり、電話で話したりしているとその中で「先生、今も走っていますか。」と言われることがある。その時は、早朝ジョギングのことをよくぞ覚えていたものだという感激ですごくうれしい。

これからも早朝ジョギングが私のトレードマークになるように、せっせ、せっせと走りつづけると同時に、生徒や同僚、友人、そして大勢の人が集まる場でも、堂々と話題とすると共に、酒をくみかわす場においても酒の肴として提供して、イメージづくりにあたりたいと思う。

つまり、私からジョギングを取ったら何も残らないと言われるくらいまで多くの人に認められ、道で会った時の合い言葉に「先生、今も走っていますか。」が定着することを切に願っている。大げさに言えば、私の生き甲斐にさえしたいと思うこの頃である。そこで一句

ジョギングの意志試される寒さかな

昭和63年厳冬

## 特殊教育

### 研究室の概要紹介

特殊教育研究室

大城正大

#### 1. はじめに

特殊教育棟は、昭和61年度の文部省の特殊教育センター設置補助要綱にもとづいて、設置された施設であります。

本施設は、本県における心身障害児教育の中心的機関として、特殊教育関係職員等の研修、心身に障害がある幼児、児童・生徒及び保護者等に対する教育相談、特殊教育の各分野についての調査研究、教育研究団体等に対する指導助言などを通じて、本県の特殊教育の充実を図っていくことを目的としています。

#### 2. 特殊教育研究室の運営

##### (1) 基本方針

本研究室は、心身の障害の程度が重度、多様化してくる心身障害児教育に対応するために、それぞれの障害を克服・改善し教育内容、指導方法・研究の推進を図り特殊教育の振興に寄与する。

##### (2) 事業内容

本研究室では、主として次のような事業を行ないます。

- ① 特殊教育に関する調査研究
- ② 特殊教育関係職員の研修（長期研修・短期研修）
- ③ 特殊教育に関する資料の収集、作成及び普及活動
- ④ 心身障害児の診断、検査、訓練、指導
- ⑤ 心身障害児の教育相談

#### 3. 特殊教育研究室の各室紹介

特殊教育棟には、各種障害ごとにそれぞれの機能が十分発揮されるように多くの専門家の意見を取り入れ、次のような施設・設備に伴う備品等が完備されています。

- ① 聴能訓練室（聴力測定、言語能力検査、聴力・言語機能の訓練等を行う）
- ② 聴覚・言語障害教育研究室（聴覚・言語障害担当主事等の研究室及び長期研修員室）
- ③ 視覚障害教育研究室（視覚障害担当主事等の研究室及び長期研修員室）
- ④ 視覚・聴覚障害行動観察室（視覚・聴覚障害児の指導及び行動観察を行う）
- ⑤ 肢体不自由・病弱障害教育研究室（肢体不自由・病弱教育担当等の研究室及び長期研修員室）
- ⑥ 機能訓練室（肢体不自由児、病弱児の機能訓練及び特殊教育担当教員の実技指導等を行う）
- ⑦ 第1プレイルーム（児童・生徒の実技指導及び職員の研修）
- ⑧ 第2プレイルーム（教育相談、教育訓練に来院した幼児、児童・生徒、保護者の待合場所）
- ⑨ 情緒障害教育研究室（情緒障害教育担当主事等の研究室及び長期研修員室）
- ⑩ 日常生活訓練室（基本的生活習慣がまだ確立していない児童・生徒の日常生活の指導を行う）
- ⑪ 精神薄弱教育研究室（精神薄弱教育担当主事等の研究室及び長期研修員室）
- ⑫ 精神薄弱障害行動観察室（精神薄弱児の指導及び行動観察を行う）
- ⑬ 教育相談者待合室（嘱託医師の診察及び外部講師等の待合室）
- ⑭ 教材教具製作室（児童・生徒が使用する教材教具の開発・研究及び作製を行う）
- ⑮ 特殊教育資料室（特殊教育関係の専門図書及び資料室）
- ⑯ 第1・2心理検査室（諸心理検査を行う）
- ⑰ 第1・2・3教育相談室（幼児、児童・生徒、保護者等の教育相談を行う）

#### 4. むすび

特殊教育研究室には、聴覚・言語障害教育担当、精神薄弱教育担当、肢体不自由・病弱教育担当の3名のスタッフがおり、それぞれの専門領域で意欲的に仕事を進めております。

また、本研究で重要視されている心身障害児の診断、検査、判別等の業務に従事する嘱託医設置規程が県教育委員会教育長訓令で、昭和63年1月12日付で施行され心身障害児の教育相談事業が開始されることになり、本教育センターの特殊教育の機能が強化され、一段と内容充実が図られるようになった。



# 研修を終えて

那覇市立金城小学校

(1カ年研修員) 砂川 千佳子

緊張感で迎えた入所式。移転して間もないピッカピカの教育センター、その建物の新しさが緊迫した雰囲気を一層強める。所長をはじめ、教育庁の先生方からの激励のお言葉。かつてないこの緊張は尾を引き、入所当初の一週間があたかも一月のように感じられた。日曜日の待ち遠しかったこと。自宅から約26kmもの長距離運転。一日中机に向かいっぱなしの苦しさ。子どものいない、慣れない環境での生活は、帰宅後ぐったりとなる。にぎやかな学校が恋しくてたまらない。

一週間を過ぎる頃から、ようやくセンターでの生活のリズムをつかむ。「大変だ。」「研究は苦しい。」と言いつつも全く自由な昼食時間、楽しい週に一度のクラブにと優雅な一時を過ごす。美しい琉舞の先生の流れるような動きに自分を重ね、自分自身もすてきに踊っている気分になる。夏はクーラー、冬は暖かい室内での朝のミーティング。世間話や教育論で花咲く。午後のコーヒータイトム、おいしいおやつは最高にうれしい。理科研修課は研究に厳しいが、人間的なふれ合いはオアシスのよう。途中ダウンしないで元気、やる気、根気でこれたのは、何といてもすばらしい理科研修課内の雰囲気のおかげ。

「テーマ」「テーマ」を合言葉にテーマ検討会、中間検討会、前期最終検討会、授業設計検討会、後期中間検討会、後期最終検討会と大波の連続。会話のある和やかな室内も検討会間際になると、だんだんと私語も減って研究に没頭する。検討会では身を小さくし、まな板の上で料理される心境で心臓音が高鳴る。研究主事や研修員の質問の雨に行き詰まる。そんなスランプ時、初等理科担当の砂川主事や棚原主事の懇切丁寧なアドバイス・励ましは、やる気を起こさせる最高の栄養である。

研修員への指導助言は勿論のこと、すべてに全力投球する主事の先生方には最敬礼。長研講座は校種を超え、小学校では経験できないような多くの見聞を広めることができた。高里課長によるスライド作りやTP作成法などの教育工学的見地からの講座。仲里主事によるめずらしいパン焼き器製作や音の実験などの講座。奥間主事による電子をとり出すいろいろな装置・電池作りの講座。アカバナーを利用した大きなシャボン玉作りや染め出し、葉脈の取り出し法なども特別に学ぶ。砂川主事による合科的な指導の歴史的背景についての講座。棚原主事による科学論文の書き方、発表の仕方などの講座。すてきな女性主事の亀谷先生による栄養素を失わないような調理法や小6教材の失敗しないごはんの炊き方など楽しみ一杯の待ち遠しい講座。調理実習のない男子の技術科は「かわいそう。」と思いきや、読書用本立て作りで製作の喜びを味わうことのできた米須主事の講座。各研究主事の深い学問や豊かなアイディアに直接触れることができ、大変有意義な研修の一コマであった。

全員そろっての野外研修や所外研修は、さらに印象深い。ツルッとすべりそうな足場の危ない傾斜を通り抜け、タナガームイでは地学分野・植物分野の学習をする。足のガクガクに運動不足を感じながらの貴重な体験の連続である。森林に入ると今までのうだるような暑さはうそのように消え、ひんやりとすがすがしく木の香りの空気に包まれる。島袋主事の大きな目がさらに大きく見開かれ、自然のすばらしさや自然保護について語る。木の違いは少しずつわかりかけてきたが、名前まではとても覚えられない。地層の重なり具合を見逃さず、1年・2年は年月のうちには入らないといった感じの動く大地・地球のドラマを熱く語る大城主事。ハブを気にしながらハブを求めて勇ましい下謝名主事を先頭に夜の与那覇岳に登る。天然記念物のホルストガエル、イシカワガエル、トカゲモドキ、イボイモリにも出会い、星空の美しさをも満喫する。体験する人の意義は大きい。

センター内では、中・高校の長研の先生方の研究を通して、小学校の理科の指導がどう発展していくか系統性を見ることができた。さらに、沖縄気象台や拓南製鐵浦添工場の見学で、科学がどのように活用されているか、現実に生きて働いてい



る科学を学んだ。

前期の研修の先生方の修了式の日、みごとに報告書を完成したことへのうらやましさ、お別れする寂しさ、取り残された劣等感さえ味わう。後期また多くの研修の先生方との新しい出会い、一年研修は2倍の喜びに変わる。

各研究主事、研修員の先生方のおかげで報告書もやや仕上げ、理科の苦手な私にも無事修了の許可がおりそうだ。

「音」で始まり「音」で終わる一年であったが、自分のテーマに沿った研究の収穫とそれ以上に多くの先生方から学んだテーマ以外の哲学を心の糧として今後も頑張っていきたい。高里課長をはじめ各研究主事に感謝申し上げたい。



## 研修を 通して学んだこと

浦添中学校教諭

後期研修員(経営研究室) 比嘉靖和

「もう二月になったのか」「あとひと月足らずか」、との声がよく聞かれます。私の場合も、これほど月日の速さを感じたことはありません。充実した日々をすごすことが出来ました。

本格的に研究レポートをまとめることは、初めてです。実践記録やその他の報告書を書いたことはありますが、いつでもまに合わせで、後味のさえないものばかりでした。今回は、学校教育目標の具体化のテーマで取り組みました。過去に、生活目標について、学年サイドで実践したことがあるので、報告書をまとめることぐらいどうにかなるとたかをくくっていました。抽象的な学校教育目標を具体化する柱だてをしてみました。重点目標と学年学級目標等とのつながりがつかめずあせりました。そこで、文献を漁り、所外研で学校訪問をしたり、担当主事のアドバイスを受けるなどして、かすかにその手がかりをつかみ得た時は、言葉では言い表わせないほどで、これが研究の喜びではないかと、自己満足しました。

担当主事は、テーマに関する図書は勿論、その他の教育の分野についても、すぐれた文献や資料等について推せんしてくれました。研修員仲間でも本の紹介をしあいました。このことが、報告書をまとめるのにずいぶん役だちました。ミーティングや読書の合間の雑談、それぞれの学校の情報交換、教育談議、室員相互の家庭訪問、隣室の仲間との交流等と、人間関係を深めるもろもろの生活がありました。これらのことも、センターでの研修生活を一層豊かにすることに役だちました。

研修計画の作成の仕方、特に、研究テーマと設定理由の組み立て方の大切さを初めて学びました。これまでは、動機とも目的ともつかない文章を申し訳程度に書いていましたが、これが、研究

の方向性を決定づける重要な要素とは知りませんでした。レジュメについて、研究主事を中心に、数日間検討会をもち、討議を重ねました。このことを通して、はじめて自分のテーマがみえてきました。テーマの全体検討会では、限られた時間内での報告の仕方と、参加者との質疑応答を通して、研究のスタイルとその厳しさを知らされました。同時に、他教科、領域の研究内容を知ることができて、職務についての視野を広めることが出来たと思っています。

多様な長研講座は、センターでの研修は勿論、今後の実践に大いに役だつと確信しています。石原所長や大城副所長の講話は、沖縄教育の課題や基礎学力の意義及び教師の姿勢を考える上で、大きな示唆を与えてくださいました。教育相談や学級経営についても短期研修員の方々と一緒に受講させていただきました。研修担当の吉川先生からは、研究論文のまとめ方や原稿の書き方、符号の使い方、イロハから教えてもらいました。これまで、いかにいいかげんな方法でレポートをまとめてきたかを思い知らされました。

歓迎球技大会や所長杯卓球大会、新年会、所外研等と、職員と研修員の親交を深める楽しい行事及び棒術や琉舞のクラブ活動等を配慮してくださり、みなさんときやすく接することが出来たのも大きな収穫の一つだと言えます。研修のすばらしい思い出になると思います。

現場では味えない、身心共に充実した6ヶ月でした。研修を通して、課題解決の糸口がつかめました。研究主事や研修員の皆さんと、かきかえのない人間関係を育てることができました。教育について考え、語り合うことが出来ました。計り知れない収穫がありました。親身になって御指導くださった先生方に心から感謝申し上げます。成果を生かすように頑張る決意です。

## 研修を 終えるにあたって

県立浦添工業高等学校教諭  
(1か年研修員) 比 嘉 範 明

もしかすると科学技術の進展という人間社会の大波に玩ばれているのではないかという危惧を持ちながらも日々進歩している現実への対応を迫られて学校現場にいる時は、毎日がイライラのしっぱなし。「あれもやりたい、これもやらなくては」と、ちょうど受験勉強中に無性に小説が読みたくなるような心境。はては逃げの姿勢か、あるいは18年の教員生活で知識の泉を底まで汲み尽くし干からびてしまったか。定かではないが、とにかく充電の時期であることは間違いない。現場の同僚に迷惑をかける覚悟で希望を表明し、首尾よく4月7日の入所式を迎えることができた。同僚からのさしたる異論もなく同意してもらったのは、うるさい奴が1年だけでも近くからいなくなるということと、研修の機会を与えてやらねばという親心からであろう。どちらが主なる理由かおそらく彼等自身でも判然とはしないであろうと信じ、いずれにしてもお互いの為になると判断し、感謝して、甘えることにした。多謝

なんとなく背中がムズムズする入所式を終えて、1年間にやるべきこと、やりたいことをノートに書き出す。心が踊り出すほどの嬉しさ、夢をみることの楽しさ……。すぐにノートの2、3ページは埋め尽くす。アアなんという浅はかさ。後々このノートが自分を苦しめるとは思いもよらぬ。

時が経つにしたがって「報告書がなければ天国だが……」というボヤキが多くなる。

「報告書作りにきたのではない。勉強に来たんだ。なんて頭の中が覗かれないのをいいことに錯乱状態を隠し通す言い訳をひねくり出してブツブツ。これでは充電なのか放電なのかわからない。充電されてないのに放電できるはずがない。あせる心を押さえつつ、充電に努める。

テーマ検討会や中間発表会に苦しまぎれに恰好いいことを言ったばかりに、そのツケも回ってきた。「人間言う事とやる事が同じだったら進歩なんかない。やる事より言う事が先行しているから進歩があるんだ」なんて勝手な理屈をつけて精神の安定をはかる。

2、3日前に自分でつくったプログラムが自分にもわからなくなった。解説をしながら妙な妄想が頭の中を駆け巡る。まるで1000年も前の漢文を解説するのと同じ作業だな。つい2、3日前に書いたプログラムだがもう意志が通じなくなっている。2、3日で1000年を越すほどの文化の断絶と同じ現象がおこる。なぜだろう。プログラムの論理が明確でない。プログラムの文体が自分のものになっていない。解説をするための情報が少ない。これではまるで考古学だ。古代の記録が正確に記録されていたら考古学なんて成立しないだろう。でも記録されている古文書や、漢書でも特別の人しか読めず、学問の1分野になっている。一体学問てなんだ。人間の記録の不備を後の世代の人が尻ぬぐいする作業？？文化の断絶を埋めていく作業？？。まさか。もしかして現代の我々は未来の人の考古学の種をかってない規模で生産しているのではないか。これが輪廻というやつか？？。でも磁気フロッピーに記録された現代の文書は考古学の対象になるのだろうか。やめよう。頭蓋骨の中が痒くなる。ところでプログラムの事だが、自分でわからなくなるようなプログラムの作り方なんて生徒に教えられるはずがない。よく考えてみるとプログラムは電子計算機を相手とはしているが、いわゆるコミュニケーションの手段ではないか。そういえばプログラミングの本には言語とか文法とか、書法、読解力、表現法等一見国語の教科書かと思うぐらい同じ用語が使用されている。もしかするとプログラミングという作業は社会学か、国語の研究分野かもしれない。しまった見かけに騙されて、工業を専門とする私が取り組んだのは間違いだったかもしれない。

どうも自信がなくなった。時すでに遅し。やるしかない。毎日がその繰返し。貴重な体験ができ、指導いただける先輩がいる教育センターだけに、充電しなければ放電できない、放電しなければ充

電できないキャパシティの小ささを数く毎日であった。教科の違う先生方との交わりもまた貴重な体験であった。

教育の本質は物ごとの本質を抽象化し普遍的な概念に高め、それを次の世代に伝えていく作業であろうが、こと電子計算機の分野においては抽象的な概念では実際にプログラムを作ることはできない。電子計算機を操作するには断片的な知識も必要であり、どの程度どの時期に教えるかが常に問題となる。普遍性を欠くものではないかという疑問がつきまとう。1冊の指導書を編集作成することを企て、はからずも自分の力のなさを自覚させられるはめになった。自分の得意とする分野に偏ってはいないか、間違いはないか、研修の意欲を削ぐ不安がつきまとう。追い詰められて方針変更。「多くの同僚の手垢が付き、贅肉を削ぎ落とし、煮詰められてこそ本物の指導書。叩き台になる案を作ろう。差し替える資料を多く作ろう。間違いは直してもらおう。」どうにか量は揃えた。物があれば批判ができる。物があれば変更ができる。開き直りに似た心境で一応の区切をつける時を迎えてしまった。

研修中所員の先生方には多くの親切丁寧なご指導を頂いた。行き詰まり悶々としている時に示唆を頂き乗り切ったことも一度や二度ではない。また先生方各様の情報の整理の仕方や生徒実習を受け入れる時の綿密な事前準備や厳格な教材の検討など、我が身を振り返って反省させられることばかりであった。特に教育にかんする知識技術の共有化、普及に腐心されている点は頭の下がる思いがし、教員集団がどうあらねばならないかを考えさせられた。

この1か年間の経験を教育の現場に活かし、同僚の先生方と共有の財産にしようと決意している。入所する時に書いた夢の詰まったノートのいくつかは達成し、多くはそのまま残ってしまった。しかも、新たな課題が解決した問題以上に追加されてしまった。

おわりに情報処理教育課課長安室肇先生はじめ、所員の先生方に厚くお礼申し上げます。

# 昭和 62 年度 研究 発表 表

領域	テーマ	内 容	発表会名	会 場	期 日	発 表 者
小学校 国語	音読・朗読を大切に した文学教材の指導 —5年教材「大きなし らかば」の指導を 中心に—	文学教材の指導を音読に始まり、音読（朗読）で終わるように指導したい。音読（朗読）の工夫によって理解を深めたい。	昭和62年度九州地区教育研究所連盟国語研究会	佐賀県公立学校共済組合「葉がくれ荘」	昭和62年11月26日（木）～27日（金）	高野 精 勇
保健 体育	授業を構成するfactorを明確にした授業研究—運動の特性と単元構成を中心—	運動を教育の目的、内容とする学習指導のとらえ方、 体育授業の構造化と組織 小・中・高校のカリキュラム構成と単元構成の事例	昭和62年度全国教育研究所連盟社会・体育研究協議会	奈良県公立学校共済組合「春日野荘」	昭和62年10月29日（木）～31日（土）	新垣 範
物 理	小・中・高校を一貫する電磁気教材の開発	音声電流を利用した「相互誘導の実験」	全理セ物理部会	埼玉県	9月24日	仲里 恒 雄
生 物	野外観察の指導法の研究 ・中学の部	小・中・高校に関連ある野外観察の指導法の検討、今回は中学校における授業実践の結果を報告した。	全理セ生物部会	徳島市	昭和62年10月21日	島袋 曠
地 学	地域素材の開発 ・琉球列島のなりたちをどう指導するか	これまでの調査資料を整理し、琉球列島のなりたちについて私案を報告し、その指導法について報告した。	全理セ地学部会	札幌市	昭和62年9月9日	大城 逸 朗
初等 理科	小・中・高校を一貫する化学領域の指導	5年「食塩水の濃さと重さ」の単元に粒子概念を導入した単元構成をし、授業実践した。その内容を報告した。	九教連物理、化学部会	福岡市	昭和63年1月13日～14日	棚原 正 栄

領域	テーマ	内 容	発表会名	会 場	期 日	発 表 者
家 庭	小学校で習得される被服縫製技能について	児童、生徒の意識と技能の定着度の実態を通して小学校家庭科の特質と役割にふれ、今後の指導をどうあるべきか報告した。	沖縄県教育研究所連盟研究発表会	沖縄県立教育センター	昭和62年 6月9日	亀谷末子
情 報 処 理	情報教育についての一考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報処理教育の推進</li> <li>○ 情報活用能力</li> <li>○ 学校教育におけるコンピュータの導入について</li> <li>○ 情報教育と情報処理教育</li> </ul>	沖縄県教育研究所連盟研究発表会	教育センター	昭和63年 2月5日	新 正 裕

# 昭和62年度長期研修員と研究テーマ

(前期)

氏名	勤務校	領域	研究テーマ
古堅圭子	本部小学校	国語	表現に即してイメージ豊かに読みとらせる指導の工夫。－2年教材「スイミー」の指導を通して－
上原美智子	コザ小学校	国語	作文力を高める指導の工夫－個別指導を中心として－
島袋直子	浜川小学校	国語	要旨のはっきりした文章を書かせる作文指導－説明的文章の読みの学習を通して－
根保幸徳	平敷屋小学校	社会	地域素材を生かした歴史学習の指導－第3学年「町の人々のくらしのうつりかわり」を中心として－
上原善哲	具志頭小学校	社会	興味・関心を起こさせる6年の歴史学習の指導－「球陽」の教材化を通して－
山田稔	高江洲小学校	算数	個人差に応じて基礎・基本の定着と数学的な考え方を育てるための授業のシステム化－5年「異分母分数の加法」におけるマスタリー・ラーニングの実践を通して－
田盛千恵子	与那原東小学校	算数	数学的な見方・考え方を育てる指導の工夫－5年「異種の2量の割合速さ」指導を通して－
高島一郎	与那原小学校	音楽	音楽集会活動の望ましいあり方－音楽朝会の見直しを通して－
下園良次	松田小学校	体育	運動の楽しさを自ら体得する学習指導の工夫－一人ひとりを生かしたサッカーの授業づくりを中心に－
国仲秀樹	南小学校	体育	一人ひとりが運動の楽しさを自ら体得する学習指導の工夫－走り幅跳びの評価を中心に－
瑞慶村哲秀	北丘小学校	特別活動	小学校における学級会活動の研究－話し合い活動の評価を通して－
呉屋三枝子	大里北小学校	特別活動	高学年における学級指導の工夫－適応指導の展開を通して－
仲村一史	大北小学校	教育工学	教育工学的手法をとり入れた授業の改善－反応分析装置(アナライザー)を活用して－
玉城節子	西原東小学校	教育相談	一人ひとりを生かす教育相談－高学年児童の理解と好ましい人間関係を通して－
佐久川勝子	浦城小学校	教育相談	学習意欲を育てる教育相談－相談的児童理解と教師の姿勢・態度－
金嶺邦子	室川小学校	特殊教育	吃音の矯正指導について －A児を中心に－

氏名	勤務校	領域	研究テーマ
伊波カツ子	古堅南小学校	学級経営	一人ひとりに「やる気」をおこさせる学級経営 一係活動の指導を通して一
宮城行雄	名蔵中学校	社会	中学校歴史的分野における地域学習の展開一八重山地域を事例として一
新里孝雄	今帰仁中学校	数学	学習意欲を高め・主体的学習態度を身につけさせる指導一中学1年「文字の式」の指導を通して一
玉城弘介	長嶺中学校	英語	表現力を育てる授業の工夫 一意欲を高める「Situation」作りを通して一
砂川盛市	城辺中学校	英語	学習意欲を持続させるための英語学習の工夫 一Speaking abilityの育成をめざして一
川平洋三	東風平中学校	道徳	人間の生き方についての自覚を深める道徳授業の工夫一指導過程・資料・発問を通して一
平良健	屋我地中学校	道徳	基本的生活習慣の定着をめざす道徳教育一学校と家庭・地域社会の連携を通して一
吉本勝	あげな中学校	教育工学	MSX2パソコンによるCAI授業の実践一「4サイクル機関の作用」の授業を通して一
徳村政秀	鏡原中学校	教育工学	中学校教育における学習指導へのマイコンの利用 一学業不振児のためのマイコンを利用した個別指導の研究一
大城侑	知念中学校	教育工学	生徒一人ひとりを生かす学習診断と教授法の評価 一コンピューターを利用したS-P表分析の活用を通して一
屋良朝孝	古堅中学校	教育相談	一人ひとりの個性を生かした学級経営一学級担任による教育相談を通して一
山城将広	浦添中学校	教育相談	学級担任の行う教育相談一登校拒否生徒の理解とその指導を通して一
池城安広	大里中学校	教育相談	学級担任の行う教育相談一教育相談を生かした学業指導一
中村真幸	南星中学校	学年経営	学校教育の充実を旨とした学年経営一学年経営の評価を生かして一
羽地良正	与勝中学校	学校経営	創意ある学校経営の基本構想を考える一仮説、学校経営案づくり一
瑞慶覧長良	佐敷中学校	学校経営	教師の資質を高める学校経営をめざして一校内授業研究を通して一
波平長吉	石垣中学校	学校経営	学校経営と学年経営の関連をどう図るか一学年主任の役割を通して一
小嶺長則	具志川高等学校	国語	郷土文学を教材化する一組踊「銘苺子」の学習指

氏 名	勤 務 校	領 域	研 究 テ ー マ
田 仲 康 亨	中部農林高等学校	国 語	導の工夫 生徒の実態を考慮した国語の系統的な学習指導法をめぐして—1学年のカリキュラムの改善と教材の編成を中心に—
野 原 幸 和	首里東高等学校	国 語	「山之口貌」の詩の世界—教材化と指導の試み—
源 河 光 男	首里高等学校	社 会	「倫理」における「自己探究と思想の源流」の理解を深める指導—旧約聖書の教材化をとおして—
大 城 房 美	美里高等学校	数 学	「確率」に興味をもたせるための教材作成とその指導
仲 村 守 和	北谷高等学校	教 育 相 談	カウンセリングマインドを生かした生徒指導—問題行動生徒への懲戒処分による指導を中心に—
松 崎 保 弘	島尻養護学校	特 殊 教 育	精神薄弱児(者)の平衡能訓練について—スタビロメーターによる平衡能訓練の実験的検討—
新 垣 好 盛	大平養護学校	特 殊 教 育	子どもの実態に合う教材・教具の開発—マイクロコンピュータの活用をめざして—
宮 城 弘	本部小学校	生 物	シリケンイモリの素材研究と教材化
田 場 栄 作	北中城小学校	物 理	第6学年「てこのはたらき」の素材研究—興味・関心を高める教具の製作—
糸 数 利津子	西原小学校	低学年理科	「色水やさんごっこをしよう」の合科的指導
東 江 明 彦	本部中学校	地 学	生徒自ら継続観察するための指導の手だて—「星の世界」を通して—
下 地 玄 幸	久松中学校	化 学	科学的な思考力を育てる指導法の工夫—「物質と原子・分子」の単元を通して—
内 原 真 永	石垣第二中学校	生 物	マングローブの素材研究と教材化
真喜屋 実 孝	北谷中学校	技術・家庭科	増幅回路のはたらきを効果的に理解させる工夫—自作教具の製作・パソコンのシュミレーションを通して—
呉 屋 繁	与那原中学校	技術・家庭科	一人ひとりの学習意欲を高める題材の選定と評価の工夫—木材加工(1)を通して—
仲 松 忠	宮古農林高等学校	生 物	発生教材としてのヌマガエルの素材研究
小 浜 正 弘	南部農林高等学校	情 報 処 理	測量におけるコンピュータの活用と教材開発
玉 城 ユリ子	那覇商業高等学校	情 報 処 理	「情報処理1」の効果的指導法について—BASIC言語によるプログラミング—
城 間 直 子	浦添工業高等学校	情 報 処 理	家庭科におけるコンピュータの活用—食物領域における献立と栄養摂取量の計算—



(後期)

氏名	勤務校	領域	研究テーマ
山内勝美	嘉手納小学校	国語	叙述に即して正確に読み取る力を育てる指導—文学教材の読みの中に「書く作業」を取り入れて—
金城康子	神森小学校	国語	国語科学習における一人読みの力をつける工夫—文学教材による視点読みを通して—
兼箇段ミツ子	具志頭小学校	国語	文学教材を豊かに読ませるための指導の工夫—音読を効果的にとりいれて—
大城正和	安田小学校	社会	地域素材を生かした社会科指導の工夫—4年「与那・安田間横断道路の開通」の学習をとおして—
稲福順次	知念小学校	社会	児童に興味・関心を起こさせる六年の歴史学習の工夫—地域素材の教材化をとおして—
浅井利真	仲泊小学校	算数	一斉指導の中で個人差を生かす問題解決学習—オープンアプローチによる指導をとおして—
大田由美子	中城小学校	算数	数学的思考方を育てる授業の工夫—3年「2けたのかけ算」問題解決の指導をとおして—
金城恵美子	与那原東小学校	算数	個の学習を成立させる学習指導の工夫—4年「分数」の指導をとおして—
吉浜聡子	赤道小学校	音楽	生き生きと歌う子どもの育成—中学生の指導事項の系統化をとおして—
栄野元康一	大里北小学校	図画工作	豊かな心を育てる図面工作の研究—地域素材を生かした題材の工夫—
我謝正和	糸満南小学校	体育	運動の楽しさを自ら体得する学習指導の工夫—一人ひとりが生きる学習評価を中心に—
盛島明秀	浦添小学校	道徳	郷土を愛する心を育てる道徳の授業—人物資料の作成及び活用をとおして—
大城キク子	長嶺小学校	道徳	道徳的実践力を育てる授業の工夫—指導過程・資料・発問の研究をとおして—
宮城久光	若狭小学校	教育工学	コンピュータ利用のコースウェア作成—算数の図形学習（三角形の性質）—
玉城時子	越来小学校	教育相談	よりよい人間関係をめざして—パーソナル調査の活用—
新垣進	石嶺小学校	教育相談	カウンセリングマインドを生かした音楽の授業—意欲を育てる教師の援助—
宮城政信	屋部小学校	学校経営	学校経営を活性化させる組織と運営の研究—校内研修をとおして—
比嘉良治	伊計中学校	国語	語学力をつける授業の工夫をめざして—作文指導をとおして—

氏 名	勤 務 校	領 域	研 究 テ ー マ
喜舎場 朝 弘	首 里 中 学 校	社 会	中学校歴史的分野における地域教材の研究―「琉球王国の成立」―
平 良 幸 一	平 良 中 学 校	社 会	自ら学ぶ力を育てる指導の工夫―学習的課題を通して―
宮 良 純一郎	伊 原 間 中 学 校	数 学	到達度評価を生かした学習指導―中学一年「方程式」の指導をとおして―
宮 原 信 也	名 護 中 学 校	保健体育	運動の楽しさを追求する選択制授業の進め方―カリキュラム構成の工夫を中心に―
与那覇 実	仲 井 真 中 学 校	保健体育	中学校における選択制授業の工夫―球技の学習評価を中心に―
伊 禮 英 元	小 禄 中 学 校	特殊教育	中学校特殊学級における進路指導―学級指導をとおして就職・進学への援助―
神 里 勇	コ ザ 中 学 校	特別活動	中学校における進路学習の工夫―個別指導・自己理解をとおして―
渡久地 勉	金 武 中 学 校	教育相談	中学校における生徒指導の充実―教育相談の考え方を中心に―
玉 城 輝 次	南 星 中 学 校	教育相談	学級担任の行う教育相談―登校拒否の早期発見とその指導をとおして―
垣 花 征 一	西 城 中 学 校	教育相談	「心の強さ・優しさ」を育てる生徒指導―「いじめ」問題を中心に―
新 城 和 市	屋 我 地 中 学 校	学級経営	学級目標を具現化するための学級経営
小波津 俊 一	与 那 原 中 学 校	学年経営	学年協働態勢の確立をめざした学年主任の役割―学年教育目標の評価を生かして―
宮 城 政 徳	東 風 平 中 学 校	学年経営	学級経営を活性化させる学年経営―学校行事をとおして―
比 嘉 靖 和	浦 添 中 学 校	学校経営	学校教育目標の具現化をめざして―月間実践目標を中心に―
伊 礼 初 美	コ ザ 高 校	国 語	事実と意見を区別し適切に文章表現する力を養う―「聞き書き」学習をとおして―
伊 佐 真 豊	小 禄 高 校	国 語	小説教材を主体的に読み味わわせるために―小説「前身」の授業の工夫―
具志堅 興 作	那 覇 高 校	社 会	高校地理における望ましい自然認識を育てる教材作成と指導―沖縄の水とくらしの学習をとおして―
仲 皿 正 伸	八 重 山 高 校	数 学	到達度に応ずる学級編成と指導の充実を図る授業設計―数学Ⅰ「図形と式」の指導をとおして―
嘉 数 進	沖 縄 水 産 高 校	数 学	数学に興味をもたせるための教材作成の試み―数Ⅱにおける「電子計算機」の指導法をとおして―

氏 名	勤 務 校	領 域	研 究 テ ー マ
狩 俣 房 枝	中 部 農 林 高 校	数 学	生徒の実態をふまえた学習指導の工夫—「図形と方程式」の指導をとおして—
並 里 明 達	本 部 高 校	英 語	Aiming at Development of Communicative Competence — On the Basis of Listenig and Reading Inpu —
上 里 秀 子	豊 見 城 南 高 校	英 語	How to Create Understandable Lessons in English I — Reading through SSH Learning—
古 堅 宗 久	コ ザ 高 校	教育工学	映像教材の自作—ホームルーム活動への利用—
宮 平 武	北 中 城 高 校	教育工学	コンピュータによる個別学習形態をめざして—化学実験の処理—
末 吉 豊 冶	首 里 東 高 校	教育工学	コンピュータによる授業改善—「2次関数のグラフ」のコースウェー
津嘉山 るり子	宜 野 湾 高 校	教育相談	学級担任による「盗み」の問題の指導—カウンセリングマインドをとおして—
銘 莉 愛 子	鏡が丘養護浦添分校	特殊教育	重度・重複障害児に対する学習プログラムの試案—ヘッドサイド授業の方法と教材発見の研究—
真 謝 孝	沖 縄 ろ う 学 校	特殊教育	聴覚障害生徒のことばの力を高めるために—語彙力の基礎的調査研究—
仲 村 優	宜 野 座 小 学 校	理 (物)	効果的な授業を進める「音」教材教具の工夫と活用—第五学年「音」の単元を通して—
崎 浜 勇	北 玉 小 学 校	理 (地)	継続観察をさせるための指導の手だて—第六学年「太陽と気温」季節の変化を通して—
砂 川 千佳子	金 城 小 学 校	理 (物)	第二学年「音あそびをしよう」の合科的な指導
与那嶺 政 裕	米 須 小 学 校	理 (生)	第六学年「草むらや林の植物」の指導の工夫—米須城跡を利用して—
大 湾 至	古 堅 小 学 校	理 (化)	酸素と二酸化炭素の素材研究
中 村 恵美子	与 那 原 小 学 校	理 (初)	一人ひとりの児童が楽しく活動できる理科学習—第二学年「まめでんきゅうにあかりがついた」の指導を通して—
野 原 勲	玉 城 小 学 校	理 (初)	第五学年「星の動き」の効果的な学習指導の工夫
吉 村 ツル代	普 天 間 第 二 小	家 庭 科	児童と共に創造する授業の工夫—第五学年「小物作り」を通して—
仲 里 誠 徳	大 里 中 学 校	理 (化)	科学変化を定量的にとらえさせるための実験法の工夫—金属の酸化を通して—
西 銘 宜 正	佐 敷 中 学 校	理 (地)	単元「天気の変化」で雲をどう指導するか
比 嘉 房 江	名 護 中 学 校	理 (化)	ワークシートによる主体的学習—科学変化における質量関係—

氏 名	勤 務 校	領 域	研 究 テ ー マ
新 垣 孝 哉	東 江 中 学 校	理 (生)	単元「生物どうしのつながり」における生命尊重の態度の育成
川 上 啓 一	北 中 城 中 学 校	技術家庭	興味・関心を高める栽培学習の工夫—養液栽培装置の研究と自作を通して—
知 名 道 博	仲 西 中 学 校	技術家庭	CAIコースウェアの利用による実習指導の工夫—木材加工I領域を通して—
久 貝 勝 盛	伊 良 部 高 校	理 (生)	素材研究 南西諸島におけるサシバの秋の渡りと越冬サシバの生活
平 良 昌 弘	沖 縄 工 業 高 校	理 (物)	理科ICA I教材の開発—等加速度直線運動のコースウェアの作—
比 嘉 範 明	浦 添 工 業 高 校	情報技術	「情報技術I」における教材開発—指導書の編成をめざして—
崎 原 盛 豊	中 部 工 業 高 校	情報技術	マイコン制御に関する教材開発
島 袋 弘 子	浦 添 商 業 高 校	情報処理	「総合実践」におけるコンピュータの活用
善 平 明 昇	宮 古 農 林 高 校	情報処理	「測量」におけるコンピュータの活用と教材活用
平 田 嗣 文	南 部 工 業 高 校	情報技術	プログラマブルコントローラに関するシミュレータの作成
垣 花 米 和	浦 添 工 業 高 校	情報技術	インテリア科におけるコンピュータの活用—パソコンCADを利用した「インテリア製図」用教材の作—

# 職 員 人 事 異 動 者

昭和63年4月1日

転 出 者				転 入 者					
職 名	氏 名	新 所 属		備 考	職 名	氏 名	旧 所 属		備 考
		所属名	職 名				所属名	職 名	
副 所 長	大 城 正 英	具志川商業学校	校 長	中頭教務所へ	副 所 長	田 村 良 祐	糸青の満家	所 長	昇任
庶務課長	西 銘 正 毅	那覇教育所	庶務課長		庶務課長	伊 佐 真 一	福利課	年金係長	
情報処理教育課長	安 室 肇	沖繩工業学校	教 頭		情報処理教育課長	吉 浜 朝 幸	那覇商業学校	教 頭	
主任研究主事	上 原 実 治	浦高等学校	教 頭		主任研究主事	下 地 哲 夫	教育センター	研究主事	
研究主事	新 崎 直 恒	渡嘉敷中学校	教 頭		主任研究主事	奥 間 朝 春	教育センター	研究主事	
研究主事	仲 里 恒 雄	泊高等学校(定時)	教 頭		主任指導主事(充)	金 城 忠 信	具志川商業学校	教 頭	
研究主事	井 上 実	慶留間中学校	教 頭		指導主事(充)	国 吉 晃	東江中学校	教 頭	
指導主事(充)	長 嶺 憲 次	那覇商業高等学校(定)	教 頭		研究主事	中 村 守	辺土名高等学校	教 頭	
指導主事(充)	宮 里 進 正	北美小学校	教 頭		指導主事(充)	岸 本 広 之	糸満中学校	教 頭	
指導主事(充)	大 城 正 大	大養護平校	教 諭		指導主事(充)	富 原 守 哉	開高平校	教 頭	
指導主事(充)	新 垣 範	那覇西高等学校	教 諭		指導主事(充)	赤 嶺 保 善	大養護平校	教 頭	
研究主事	下 地 哲 夫	教育センター	主任研究主事		研究主事	宮 城 邦 子	大高等学校	教 諭	
研究主事	奥 間 朝 春	教育センター	主任研究主事		研究主事	新 垣 安 教	具志川高等学校	教 頭	
指導主事(充)	金 城 千 代 徳	与高等学校	教 頭		指導主事(充)	仲 松 彌 一	美東中学校	教 頭	
庶務係長	新 里 修	財務課	学校予算係長		研究主事	野 村 洋	与高等学校	教 諭	
主 事 補	金 城 ゆ かり	教育センター	主 事	指導主事(充)	金 城 千 代 徳	与高等学校	教 頭		
				庶務係長	村 山 勝 信	博物館	庶務課長		
				主 事	金 城 ゆ かり	教育センター	主 事 補		
				用 務 員	花 城 康 司	奥武山総合運動場	用 務 員		
				臨 任					

所 報 第 17 号

昭和 63 年 3 月

発 行 人

石 原 昌 弘

編 集 委 員

西 銘 正 毅 ・ 玉 城 勝 也 ・ 米 須 清 一 ・ 知 名 和 子

発 行 所

沖 縄 県 立 教 育 セ ン タ ー

〒 904-21 沖 縄 県 沖 縄 市 字 与 儀 5 8 7 番 地

電 話 ( 09893 ) { (3) - 7 5 5 5 ( 代 表 )  
(3) - 3 2 3 3 ( 情 報 処 理 課 )